

第2学年国語科学習指導案

日 時：令和4年11月9日（水） 5時間目

学 級：花巻市立花巻中学校2年1組

会 場：2年1組 教室

授業者：阿 部 志 賀 子

1 単元名

何が違うの？今と昔！～昔の人が大切にしてきたこととは？～

教材名

「徒然草」（冒頭部分・仁和寺にある法師）・「平家物語」（祇園精舎・扇の的・弓流し）

2 単元について

（1）生徒について

本学級の雰囲気は明るく、行事にも前向きに取り組むことができ、生徒どうしが協力しながら活動することができる。国語の授業での積極性は、10月に行われた岩手県中学校学習定着度状況調査から、「国語の勉強が好き・どちらかと言えば好き」と答えた生徒が75%いることと、「国語の授業が分かる・どちらかといえば分かる」と答えた生徒が93.8%いることから裏付けられている。さらに、お互いを気遣いつつ発言しようとする素地もあり、メリハリもあり、落ち着いた学習態度である。しかし、古文学習については、「読みにくい」、「何を書いているのか分からない」など、苦手意識をもっている生徒が53.1%もいる。そこで、リズムにのった音読を取り入れたり、音読テキストの工夫をしたりすることから、抵抗感を軽減しながら内容の読み取りをさせたい。また、自分の考えを深め合う言語活動を取り入れることで、もっと多くの生徒に達成感を味わわせたい。更に、国語での座席の工夫を行い、スムーズなグループ学習ができるようにしたい。

（2）教材について

本教材では、言語文化（3）イ「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。」C読む（1）オ「文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。」を指導するものである。「徒然草」・「平家物語」に表現されている昔の人の考え方やものの見方・感じ方などを読み取り、交流という言語活動を行い、現代との相違点や共通点を発見し、自分の考えをもつことで古典の世界への親しみを深めていきたい。また、本教材の配列を、漢文を学習した後に設定し、漢文の歯切れ良い響きに触れた後、音読の楽しみに触れさせたい。兼好法師の人生観や、平家物語の武士の考え方に触れ、自分の生き方を考える機会としていきたい。

（3）指導について・研究との関わり

『主体的に学び続ける生徒の育成』～いわての授業づくり3つの視点からの授業改善～

① 学習の見通し

→交流するという言語活動を設定することで、見通しをもって学習を進めることができるようにする。

→生徒が、課題解決の方法や過程についての見通しをもち、振り返ることができるように構造的な板書（キーワードを示す等）を計画する。

② 学習課題を解決するための学習活動

→生徒が「見方・考え方」を働かせながら、主体的に課題解決に取り組めるような学習活動を充実させる。

→ペア等のグループ活動を位置づけ、生徒が対話的な学びを通して自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

③ 学習の振り返り

→単元や題材のまとめなど内容ごとに、学習内容や学習方法、課題解決の過程等、学んだことを自覚できるように振り返りシート（単元の振り返り含む）等を活用する。

(4) 単元の見方

【知識および技能】

現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を
 することができる。 [言語文化(3)イ]

【思考力、判断力、表現力等】

文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたり
 することができる。 [C読む(1)オ]

【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立てて、我が国の言語文化を大切に
 して、思いや考えを伝え合おうとする。

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)イ	① 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 C(1)オ	① 人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。

(6) 指導と評価の計画

時	学習活動	観 点			評価規準・評価方法等
		知	思	態	
1	○原文を朗読し、文体に親しみ、「仁和寺にある法師」の思い込みと、兼好法師の教訓を考える。		○		・「仁和寺にある法師」のエピソードの部分を読み取るとともに、兼好法師の教訓を捉え、昔の人の生き方についてプリントにまとめている。(観察・プリント)
2	○「平家物語」について基礎知識をもつとともに、冒頭部分を暗唱する。	○			・「平家物語」について基礎知識や表現の特色をプリントにまとめている。(観察・プリント)
3	○「扇の的」の場面における屋島の戦いの状況を把握し、那須の与一の心情を読み取る。		○		・屋島の戦いの状況を把握している。 ・矢を射る直前の与一の心情を読み取っている。(プリント)
4	○扇に矢が当たるまでの状況を把握し、矢が当たったときの源平両軍の反応から、当時の武士の考え方を読み取る。	○		○	・的に矢を当てることが、とても困難であった状況を読み取り説明することができる。【知】 ・源平両軍の反応から、当時の武士の置かれた状況や価値観を読み取り、自分の考えを表現している。(プリント)【思】
5 本時	○「扇の的」を射切った後に、舞を舞った平家の男のエピソードから、当時の人の考え方を読み取る。		○		・舞を舞った平家の男のエピソードについての、当時の人の心情に気づき、現代の人との共通点と相違点を考えている。(プリント)

6	○「弓流し」のエピソードから、義経が守りたかったものを考え、当時の武士道を理解する。		○	・当時の武士は、いかにプライドをもっていたか、また、プライドが傷つけられたことを「恥」とし、「恥」＝「死」という考えであったことを読み取っている。(プリント)
7	○登場人物の一人に着目し、どのような考え方の人なのか、なぜそれがわかるのか、自分はその人に対してどのように考えるのかということをプリントにメモとしてまとめて、グループで交流する。		○ ○	・自分の考えを伝えたり、仲間の考えを書きとめたりしながら交流している。(観察)【思】 ・注目した人物について、理由や自分の考えをまとめようとしている(プリント)【主】

3 本時について (5時間目/全7時間)

(1) 目標

「扇の的」を射切った後に、舞を舞った平家の男のエピソードから、当時の人の考え方を読み取り、現代の人との考え方の共通点に気づくことができる。

(2) 評価規準

舞を舞った平家の男のエピソードについての、当時の人の心情に気づき、現代の人との共通点と相違点を考えている。
【思考・判断・表現】C(1)エ

(3) 本時の指導構想 (研究主題との関わり)

前時までに、当時の武士は難しいことを成し遂げたときには、敵であっても誉め讃える文化があったことを学習しており、「屋島の戦い」が源平合戦の中でも歴史に残る素晴らしい戦いであったと感じている。

そこで本時は、今までの学習での進め方を使いながら、古文の内容を読み取ることでスムーズに思考することをねらって設定した。具体的には、那須与一が扇を射落とした後に、何があったのかを古文から読み取ったり、舞を舞った平家の男が射倒されたことに対して自分ならばどのように考えるのかという場面を設定したりしながら、当時の人の考え方を読み取る。また、個で考える時間と周りの生徒と情報交換をする時間を設けることで協働的で深い学びにつながるように発問を工夫した授業を展開する。

(4) 展 開

段階	学習活動・学習活動	指導上の留意点	☆研究とのかかわり ●評 価
導入 7分	1. 単元の課題を確認する 2. 課題の設定 古文中から、与一の矢が当たったあとの源平両軍の反応から、本時の学習課題を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 何が違うの？今と昔！ ～昔の人が大切にしてきたこととは？～ </div> ・扇が射落とされた後、年五十ばかりなる男が射倒されるまでの状況を確認する。	☆学習の見通し 課題解決にむけて、考え方を確認し、解決方法や結果を予想している。
展 開 33分	3. 古文の音読 (3分) ペア読み→全体斉読 4. 状況の確認 (3分) 5. もし、自分がその場にいたらどう思うかを考える (10分) プリント記入→発表 6. 考えを深める (17分) プリント記入→交流→全体で確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習課題 その時、あなたはどうか考える？ </div> ・和漢混交文、係り結び、擬音語に気をつけながら歯切れ良く音読する。 ・箇条書きで以下を確認する。 ① 登場人物 ②何があったのか ② 両軍の反応 ・視覚的な情報や歴史的な事実等をつけ加えながら、確認させる。 ・自分がその場にいたらどのような気持ちになるかを考えさせ、全体で発表させる。 ・当時の人が「あ、射たり」、「情けなし」の反応をしていたことを知る。 ・「情けなし」の意味を捉える。 ・自分はどの立場に近いかを確認し、理由を記入した上でグループ交流をする。	☆学習課題を解決するための学習活動 古文に読み慣れている。 ●「あ、射たり」または「情けなし」のそれぞれの立場から昔の人の考えを読み取り、現代の人との共通点や相違点を考えることができる。【思考・判断・表現】
終 末 10 分	7. 振り返り (10分) 振り返りシートに記入する。	・当時の人の思いと自分の思いの共通点と相違点に着目し、当時の人の考え方は今に通じることがあることをまとめる。	☆学習の振り返り 課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。 ●現代にも通じる考え方があること気づく。【思考・判断・表現】
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>まとめ (生徒の記述例)</p> <p>私がこの場にいたら、そこまでなくてもいいのと思うだろう。平家の男の舞は見事扇を射当てた与一への賞賛であったが、その男さえも射なければならぬのは辛すぎるからだ。最後に提示された古文にも、当時の人がそこまでなくてもよかったと考えていることを知り、現代の人とかわらないことがあると分かった。現代でも、難しいことを成し遂げた場面での賞賛もあることから、時代は違っても共通点も多いのではないかと古文の世界を身近に感じる事ができた。</p> </div>			